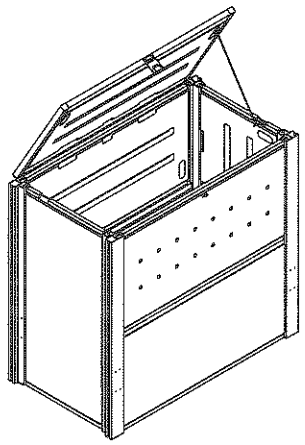
葉物残渣分解器 みのるベジポスト
CP-170・CP-170B 取扱説明書



仕　様

名称・愛称	葉物残渣分解器　ベジポスト
型式	ＣＰ-１７０
	ＣＰ-１７０Ｂ（連結設置専用）
寸法	幅 1596mm×奥行 846mm×高 1538mm
質量	約５１ｋｇ（ＣＰ-１７０）
	約３９ｋｇ（ＣＰ-１７０Ｂ）
容量	約１７００Ｌ

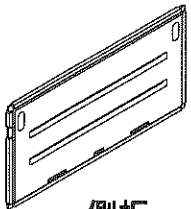
このたびは、お買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
●この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
●お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお読みください。
●人に貸与する時は、この取扱説明書をよく読むように指導してください。

⚠ 警告　《必ず守ってください！》

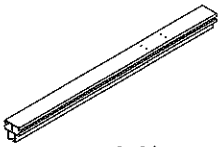
1．みのる分解菌は人体や動物に無害ですが、口に入れたり食べたりしないでください。
2．本器を子供だけで使わせたり、フタを開けたままにしないでください。
　不意にフタが閉じて、傷害や事故につながるおそれがあります。
3．作物の実や家庭残飯、一般ゴミなどを投入しないでください。腐敗して悪臭や害虫が
　発生する原因になります。硬い木質の物、樹脂や金属なども入れないでください。
4．残渣を投入後、上から強く押し付けたり、上に乗って踏み付けたりしないでください。
　本器の変形や破損の原因になり、また傷害や事故につながるおそれがあります。
5．本器の近くや中で火気を用いないでください。火災につながるおそれがあります。

セット内容　（CP-170Bは、連結設置専用の製品です。単独では使えません。）

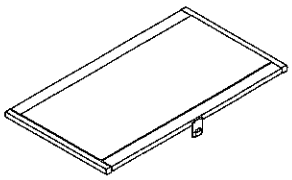
※型式により数が異なります。



側板
（CP-170…６枚）
（CP-170B…５枚）

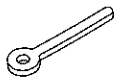


支柱
（CP-170…４本）
（CP-170B…２本）

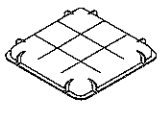


フタ（１枚）

ビニタイ（１本）

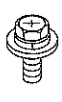


ロック棒（１本）

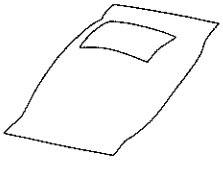


支柱支持板
（４個）

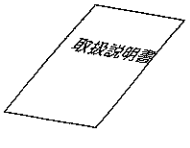
タッピンネジ
（１６本）



六角ボルト
（４本）



みのる分解菌
（１袋：１０Ｌ）

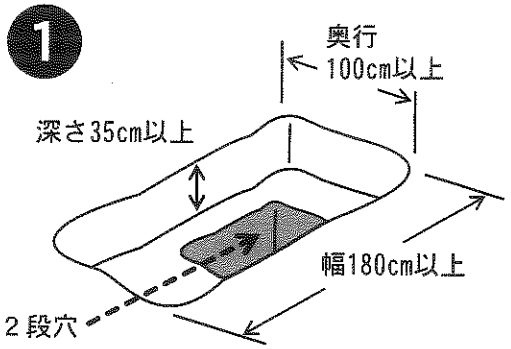


取扱説明書
（１冊）

設置と組立て方法

注意！ 組立て時に電動工具で強く締めないでください。ネジ穴が破損する場合があります。

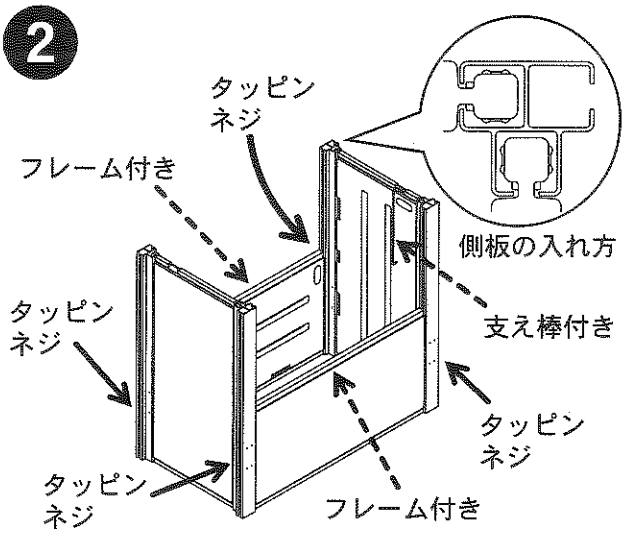
1



《設置前の準備》
別ページの図面のように、地面に穴を掘ります。
中央部には、耕盤を貫く２段穴を掘ります。
連結設置する場合は、台数分の幅の穴が必要です。

《 注意！》
必ず穴を掘ってください。残渣を投入しにくくなったり、強風によって本器が倒れたり、分解液が外に漏れ出たりする原因になります。

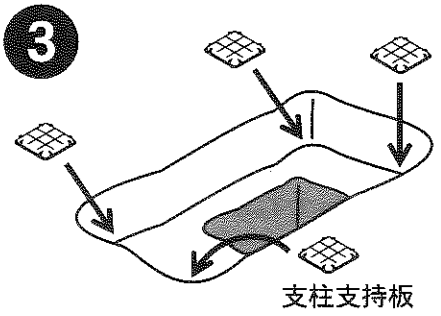
2



《本器の組立て①》
水平な場所で、支柱４本と側板４枚（通気穴なし）を左図のように組立てます。他の側板やフタで水平面を作ることもできます。
側板と支柱の底面水平が一致していることを確認し、支柱に各４本のタッピンネジで側板を固定します。

《注意！》
必ず底面水平を合わせてください。水平になっていないと、設置後にガタついたり、スキマが発生したり、フタが閉まりにくくなったりする原因になります。

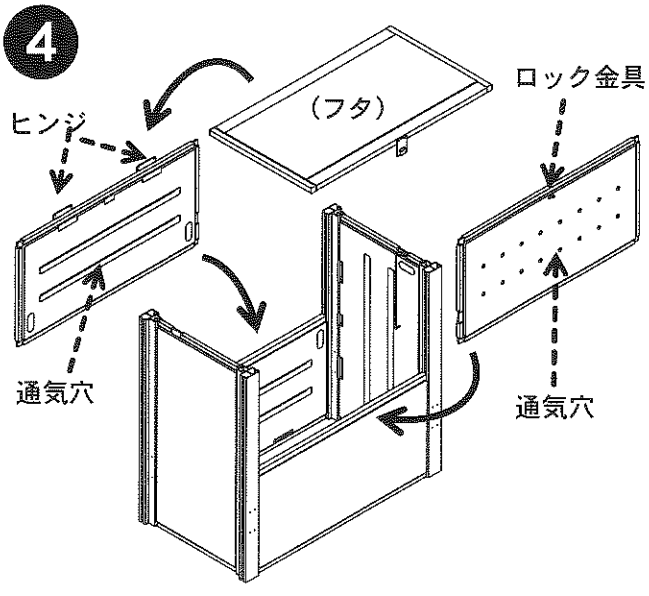
3



《掘った穴への設置》
掘った穴の四隅（支柱の目安位置）に支柱支持板を置きます。その上に、組立てたユニットを設置します。（市販の水準器で水平を確認してください。）

《 注意！》
必ず支柱支持板を置いてください。支柱が沈んでガタつきやスキマが発生する原因になります。

4

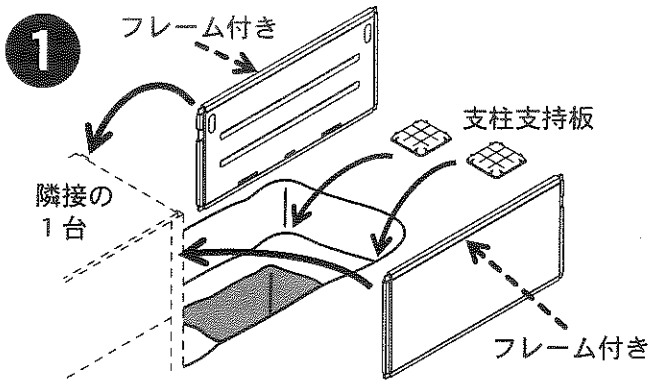


《本器の組立て②》
左図の奥側にヒンジ付きの側板、手前側にロック金具付きの側板を差し込みます。
次にフタを上に載せて、本器の背面側から六角ボルトを２本ずつ、ヒンジの穴を通し、フタのネジ穴に締め込みます。最後に市販の水準器で本器の水平を確認します。
（本器に水準器は付属していません。）

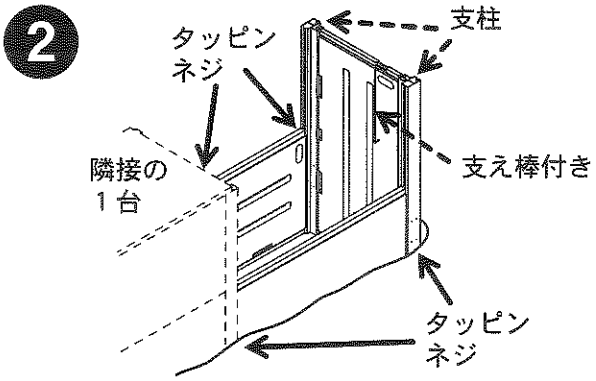
《注意！》
- 必ず本器の水平を確認してください。水平になっていないと、設置後にガタついたり、スキマが発生したり、フタが閉まりにくくなったりする原因になります。
- 本器と地面のスキマの埋め戻しは、残渣投入後に行なってください。

連結型（CP-170B）の組立て方法

注意！ CP-10Bは、正面に向かって右側しか設置できません。

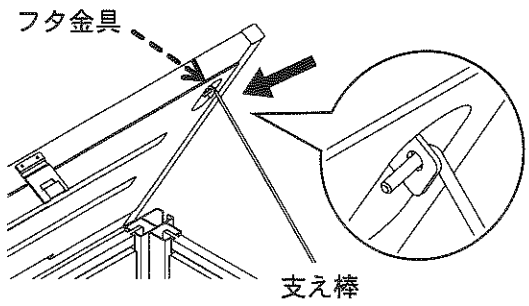


《増設する場合の組立て①》
連結設置する場所に穴を掘っておきます。
左図のように、フレーム付きの側板を隣接する本器の支柱に差し込みます。
次に、支柱の目安位置に支柱支持板を置いておきます。
最初から連結で複数台設置する場合は、底の穴（２段穴を含む）を横につなげて掘り、水平を合わせておきます。

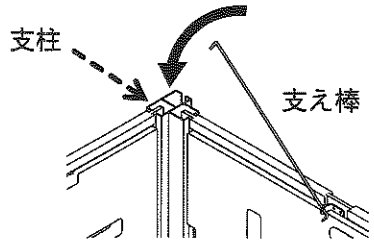


《増設する場合の組立て②》
支柱２本を差し込み、支え棒付きの側板を差し込みます。隣接する本器の下段側板と高さが揃うように、支柱支持板の下に小石などを入れて高さ調整します。
高さが揃ったら、それぞれの支柱に側板をタッピンネジ各２本で固定します。
その後、前ページの❹と同様に残りの側板とフタを組付けます。

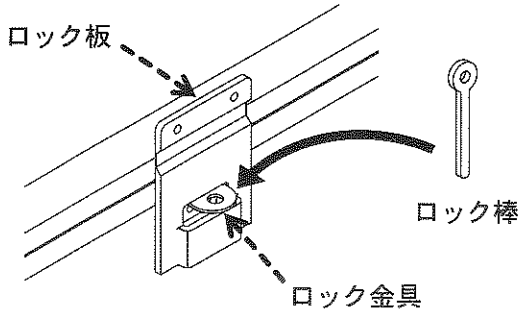
本器各部の使用方法



●フタを開けて固定する
作業を始める時、フタを開くと右上にフタ金具があります。
左図のように、支柱の先端をフタ金具の穴に差し込んで固定してください。
《注意！》
必ず左図のようにしっかり差し込んでください。中途半端ですと、強風などで外れる場合があり危険です。



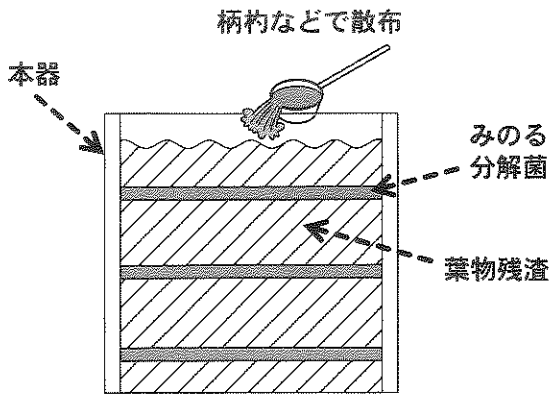
●支え棒を収納する
フタを閉じる時は、左手でフタを支えてフタ金具から支え棒を外します。
外した支え棒は、先端を支柱の上端面の穴に引っ掛けると収納できます。



●フタを閉じて固定する
作業を終えてフタを閉じる時は、ロック板を正面のロック金具に通し、付属のロック棒を差し込み、フタが開かないようにしてください。
《注意！》
ロック棒は、付属のビニタイでロック板に結んで紛失しないようにしてください。

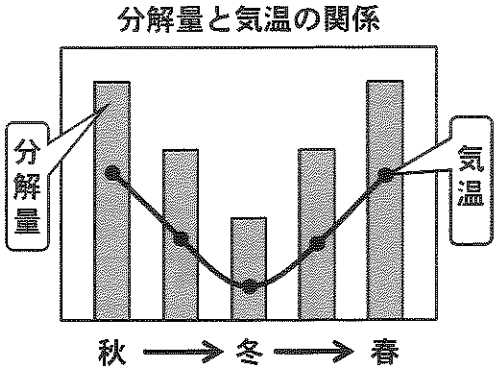
『みのる分解菌』とは

注意！ みのる分解菌は直射日光を避け、冷暗所で保管してください。



農産物の不要部分（葉物残渣）の分解を促進するオリジナルの菌類です。悪臭や害虫の発生を抑える効果もあります。
本器使用のスタート時には、左図のように葉物残渣と、『みのる分解菌』をサンドイッチ状に入れます。最後に『みのる分解菌』を約１Ｌ、表面に振りかけます。以降は約２週間に１回、葉物残渣の投入後に約１Ｌを振りかけます。
葉物残渣が出たら、できるだけ常に投入口高さ(満杯)まで入れておくことが望ましいです。

よくある質問（Ｑ＆Ａ）



●分解が進まない、または分解が遅くなった。
⇒分解する菌の働きは気温の影響を大きく受けます。一般に冬季（低温時）には分解スピードが低下しますが、残渣は菌のエサですので継続して投入してください。
⇒『みのる分解菌』は多様な葉物残渣の分解に適していますが、一部に分解しにくい植物もあります。一般に木質（樹木に近いもの、硬い茎など）は分解しにくいです。

●ハエなどの害虫が発生している。
⇒作物の実や家庭残飯などは脂肪やタンパク質が多く含まれ、栄養価が高いため腐敗しやすく、悪臭や害虫が発生する原因になります。このような物は投入しないでください。
⇒一部の害虫は、好んで葉や茎をエサにしたり、産卵場所にしたりする場合があります。また、途中で投入をやめたりすると、害虫が住み着きやすい空間ができる場合があります。残渣の投入を続けることで害虫の発生を抑制できます。

●使用できる作物について教えてください。
⇒トマト・イチゴ・ネギの葉物残渣は、実証試験で好結果が出ています。
葉物野菜（キャベツ・ホウレンソウなど）の残渣でも同様の結果が期待できます。
根菜類・果実・主茎などの硬い木質の残渣は投入しないでください。
トマト栽培の葉かき・芽かきで多く出てくる葉物残渣は本器での処理に適していますが、トマトの実や主茎は分解しにくく不向きですので御注意ください。

●設置台数の目安を教えてください。
⇒栽培時に出る葉物残渣が多い作物（例：トマトの葉物残渣）の場合は、栽培面積で１０００㎡あたり１．５台が目安です。それ以外の作物は、１０００㎡あたり１台を目安に設置します。
（１０００㎡＝約１反）
なお、必要に応じて増設することは容易にできます。（増設時にはＣＰ-１７０Ｂを用います。）

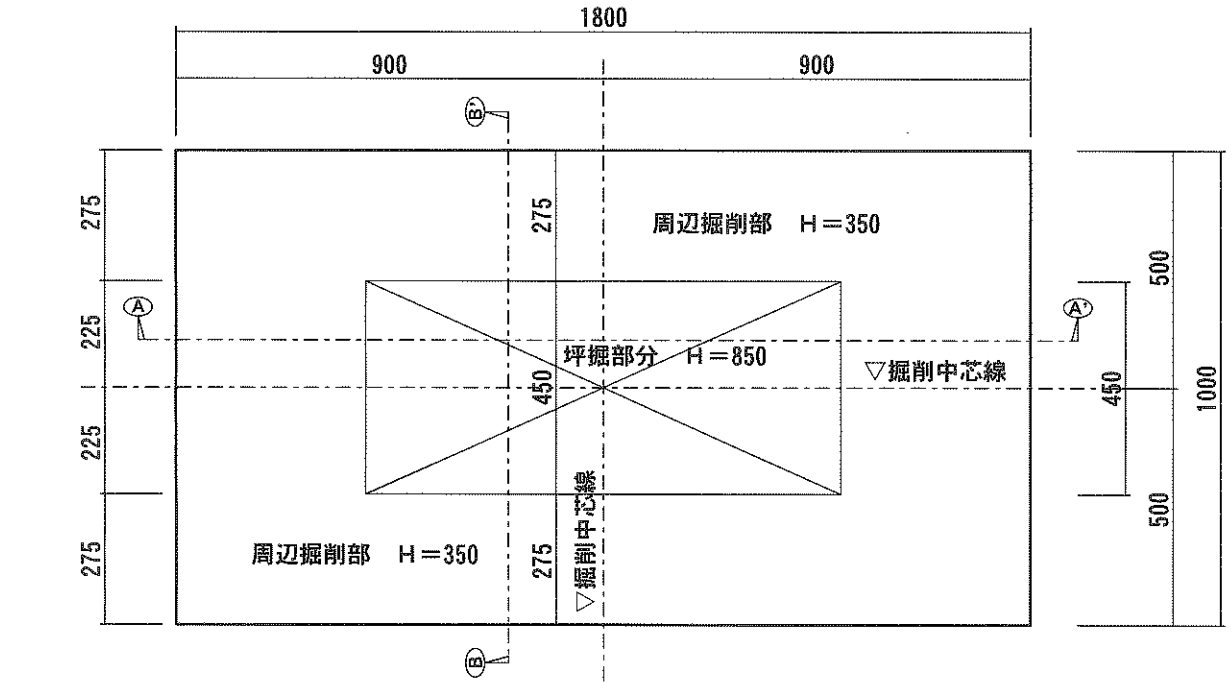
●設置場所はどこがいいですか。
⇒『みのる分解菌』には悪臭を抑える効果がありますが、住宅地の近くや人通りの多い場所への設置は、念のため控えてください。残渣が出る場所に近いほうが時間や労力の軽減になります。

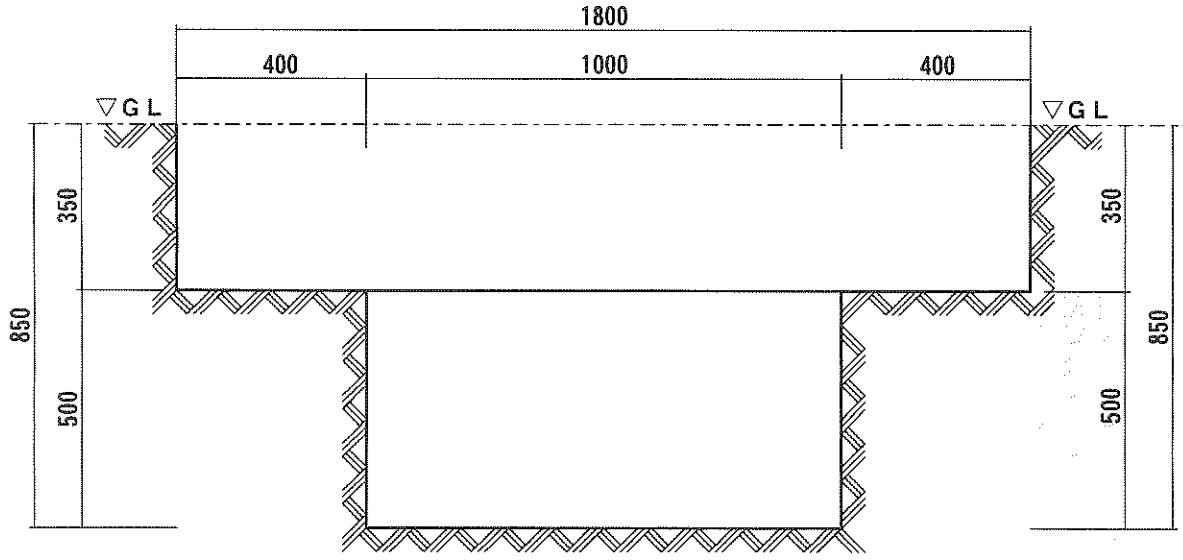
●葉物残渣が入れにくくないですか。
⇒本器の高さは約１．５ｍですが、穴を掘って下部を地中に埋め込み設置しますので、例えば穴を４０ｃｍ掘って設置しますと地上高は１．１ｍになります。もし、本器の使用を始めてから投入しづらい場合は、頑丈な踏み台などを用意して安全確認をしてから作業をしてください。

●設置方法（穴の掘り方）について教えてください。
⇒ショベルやスコップなどを用いて手作業で掘ることも可能ですが、特に一度に複数台並べて連結設置する場合には、パワーショベルなどの建機を用いて掘ることをお勧めします。
栽培ハウスの施工業者様や、お近くの建設会社様にお問い合わせください。
穴の寸法については、別ページの穴掘り図面を参照してください。

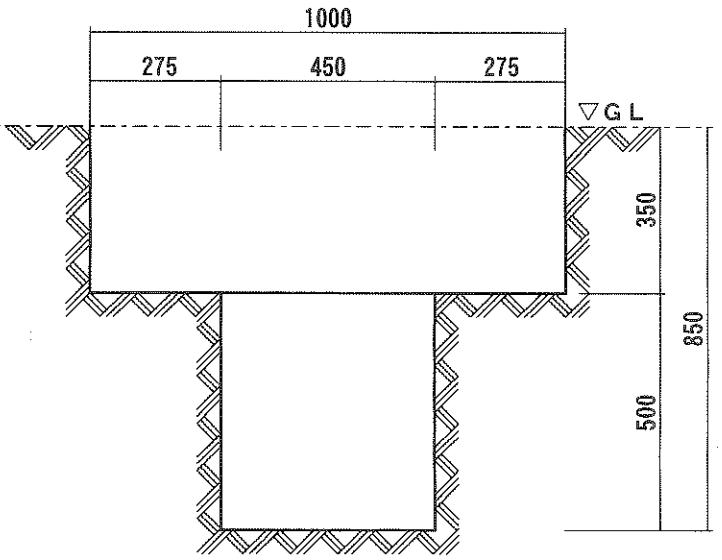
穴掘り図面

本図は、１台設置の穴掘り寸法を示します。
一度に複数台連結設置する場合は、台数分の穴を横につなげて掘ります。
その際、坪堀部分も横につなげて溝になるように掘ります。





Ⓐ～Ⓐ' 断面図



Ⓑ～Ⓑ' 断面図

保　証　書

名称	型式
保証期間	1ヶ年
お買上げ日	年　月　日
お客様	ご住所　〒
	TEL
	ご芳名　様
販売店	住所
	店名　印
	TEL

この製品は、厳密なる品質管理及び検査を経てお届けしたものです。
お客様の正常なご使用状態で、万一故障した場合には、本保証書記載内容によりお買上げの販売店が修理いたします。
※修理は、お買上げの販売店に必ず本保証書をご提示の上、ご依頼下さい。
※ご贈答、ご転居の際は、事前にお買上げの販売店へご相談下さい。
※本保証書は、再発行いたしませんので大切に保存して下さい。
※本保証書に販売店印のない場合無効となりますのでご注意下さい。

みのる産業株式会社
〒709-0892 岡山県赤磐市下市447

保証規定

1. 保証期間内（お買上げ日より1ヶ年）に正常なる使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
2. つぎのような場合には、保証期間内でも有料修理になります。
   （イ） 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷。
   （ロ） お買上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷。
   （ハ） 火災、地震、水害、塩害、ガス害、異常電圧、雷、その他天災地変などによる故障及び損傷。
   （ニ） 保証書の提示がない場合。
   （ホ） 本保証書のお買上げ年月日および販売店名の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。
3. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.

修理年月日	修　理　内　容	店検印

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書控）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただくことがありますのでご了承ください。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合はお買上げの販売店にお問合わせください。

※製品の外観・仕様などは予告なく変更になることがあります。

創造への挑戦
みのる産業株式会社

ホームページ https://www.minoru-sangyo.co.jp

⚠ 安全に関するご注意
商品を安全にお使いいただくため、
ご使用の前に必ず「取扱説明書」をお読みください。

本社・工場　〒709-0892 岡山県赤磐市下市447　TEL (086) 955-1123 (代)　FAX (086) 955-5520
東京支店　〒337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野210　TEL (048) 683-9451 (代)　FAX (048) 683-9452
長野営業所　〒389-1104 長野県長野市豊野町浅野582-4　TEL (026) 257-6530 (代)　FAX (026) 257-6531
九州支店　〒818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡1020-1　TEL (092) 921-6006 (代)　FAX (092) 921-6008